

(～走孔×口又～大宰治 著)

「×□又の

全力を検証」

2年D組 18番

村田 一真

1. 動機・目的

■ Xロスはシラス (イタリア半島の南端・シリア島の東岸にある港町より10里 (1里は約3.9km) 離れた村の牧人である。

彼は、妹の結婚式の品を買うために、この町にやて来たのだ。

そこで、そのついでにこの町で石工をしている、ケケ馬の友、

セリヌンティウスを訪ねるつもりだった。しかし、この町で、国王が人を信じる事が出来ず、その悪心が、身内や臣下を殺していること

を耳にして、Xロスは激怒した。彼は、王の暗殺を決意

して王城に侵入するが、あえなく衛兵に捕まり、

死刑される事が決まる。彼は、妹の結婚式に出るために

親友セリヌンティウスを人質として差し出すことを

条件に、3日の猶予をもらう。王は死ぬとわかって

いて戻ってくることはないとしてXロスを信用しなかった

が、Xロスは自分を信じて人質になってくれた親友の

ためにも、必死に10里の道を往復する。

■ さて、ここで今回私は、Xロスがどれほどの勢いで

10里の道を進んだのかを算出し、数値で彼の「がんばり」

を感じたいと思う。深夜に王城でセリヌンティウス

と2年がりに会い別れた後、3日後の日没までの

Xロスの足取りを検証した。

2. 検証内容

1日目

[時]

- ・「初夏 満天の星の深夜出発」の記述 \Rightarrow 0:00 AM と仮定

[他の算出条件]

- ・「一睡もせず... 十里の道を急いで村に到着」
- ・「到着したのは、午前日は既に高く昇って村人たちは野に出て仕事を始めていた」 \Rightarrow 10:00 AM と仮定

以上の2点より、39km(十里)を10時間で到着したと考えられる。よって平均時速は、

$$\text{平均時速} = 39(\text{km}) \div 10(\text{時間}) = 3.9 \text{ km/時} \text{ と推定される。} \quad \textcircled{1}$$

2日目

- ・「妹の結婚式を豪雨の中、無事取り行い羊小屋にもぐり込んで... 深く眠った」の記述。
 \Rightarrow 体調OK! 天気NO!

3日目

[スタート地点]

- ・「目が覚めたのはあくる日の薄明のころ」の記述 \Rightarrow 初夏なのでほぼ夏至頃の日の出時間少し前と推定

イタリア南端は北緯38°付近で日本の仙台と
ほぼ同じ。今年の仙台の夏至の日の出 日の入りは、

「日の出」4時12分

「日の入」19時4分 だった。

よって目覚めたのは ⇒ 04:00 A.M と推定

・朝になり、雨は小雨となった。

・「悠々と身支度を始めた」

⇒ 出発は ⇒ 04:30 A.M と仮定

[時・距離：中間地点]

・「全里程の半ばに到達した頃、昨日の豪雨で
川中の橋げたがろぼみじん」

・「太陽も既に真昼時」との記述。

⇒ 12:00には全里程の半分の20kmに到達して
いたと推定。

$$\text{平均時速} = 20(\text{km}) \div (12 - 4.5) (\text{時間})$$

$$= 2.666\ldots = 2.7 (\text{km/時}) \dots \text{遅い?}$$

[スタート～中間点]

- ・ 全行程半ばまでの行程は「村を出て、野を横切り森をぐり抜け」と記述している
- ・ 途中から「雨はやみ暑くなってきた」との記述

[中間点付近]

- ・ 橋のない濁流の川を強行突破したが日は既に西に傾き始めていた。⇒ 13:00頃と推定

[中間点～峠]

- ・ 荒い呼吸をしながら「峠」を登りかけた時、目の前に山賊が現われ戦う。⇒ 夕40分と仮定
- ↓
- ・ 峠を下った所で「精も根も尽き果て、動けなくなり倒れる」
- ・ 起き上がり水を飲み疲労回復。

[最終目的地(シラス)へ]

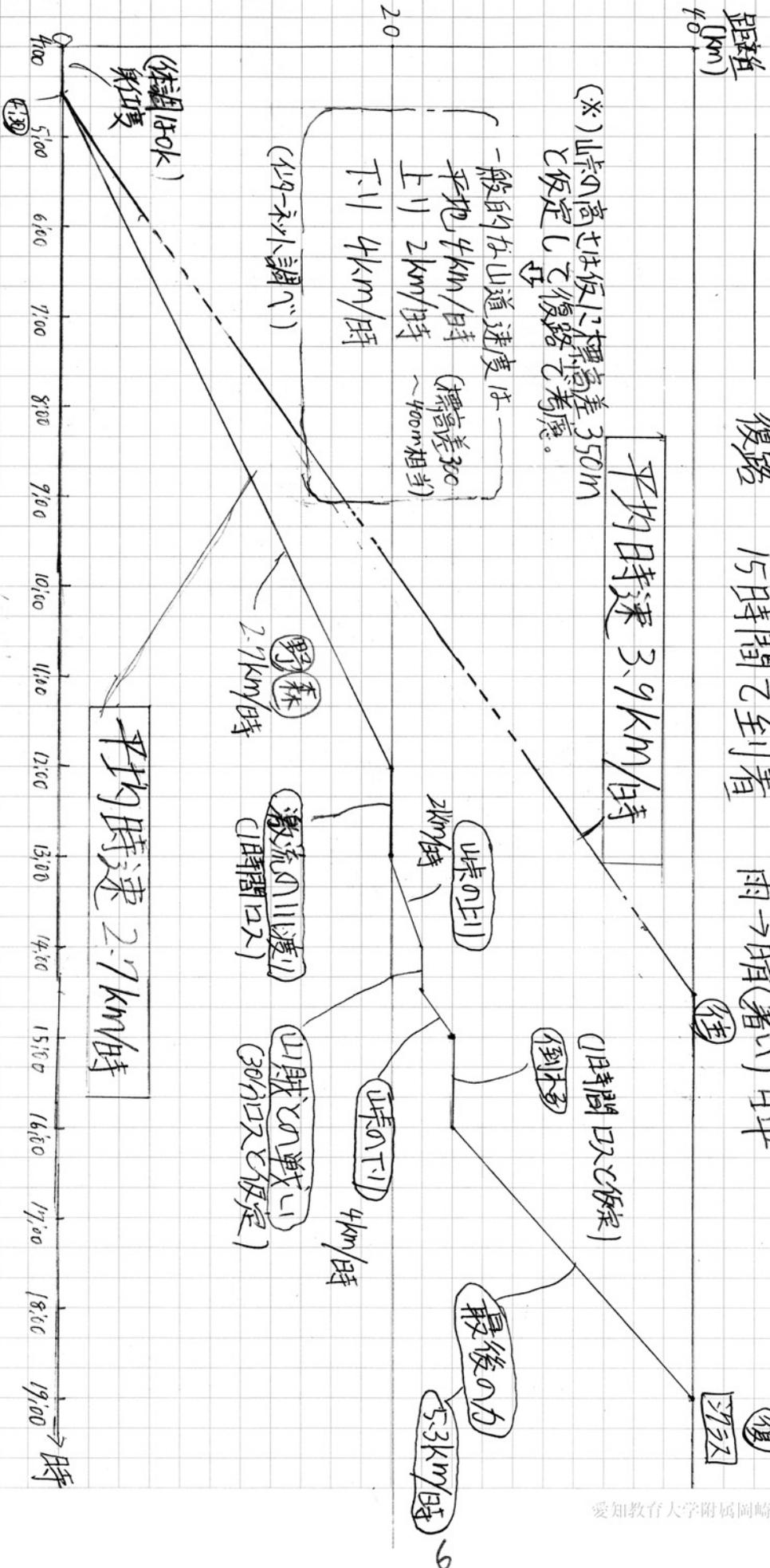
最後の死力を尽しXロスは走り、日がゆらゆら地平線に沈み、まさに最後の一片の残光も消えようとしたときXロスは刑場に突入、間に合う

⇒ 日没時間19:00と推定(仙台の夏至日没時間)

以上の事より、「Xロスの足取り」の検証結果を次の様にまとめた。

3. Xロクの足取り1) 検証結果

往路 10時間之到着 良山天気 深夜2月-1
 復路 15時間之到着 雨→晴(暑い)日中



4. 考察

・今回調べてみて、Xロスはまったく全力で走っていないことが分かった。

・[他のものと比べる]

・まず、フルマラソンで考えると、一般男性の平均は、4時間30分であった。フルマラソンは42.195kmなので

$$\text{平均時速} = 42(\text{km}) \div 4.5 = 9.3333\dots = 9\text{km/時} \text{ となる}$$

・次に100km走るウルトラマラソンで考えると、男子世界最速は、6時間15分であるので

$$\text{平均時速} = 100\text{km} \div 6.25 = 16\text{km/時} \text{ となる}$$

・補足でフルマラソンの男子世界最速は2時間なので

$$\text{平均時速} = 42(\text{km}) \div 2 = 21\text{km/時} \text{ となる}$$

[結果]

・上に書いたことを見るとXロスはまったく速くないことがわかります。

・一般男性の歩行速度は4kmなのでXロスは、往路は歩いたことがわかります。

・そして、Xロスが復路の終りぐらいに最後の死力として、走ったけれども、それはただの速歩きだったということがわかりました。

[考察]

- ・往路の事でXロスは結婚式のため色々買ったので、
それをすべて持って村に行かなければいけないので、
少し遅くなったと思います。しかし遅すぎると思いました。

5.感想

- ・いつも気にかけているところには色々なナゾがあって、おもしろい
と思いました。そして、「走れXロス」というタイトルは、
「走れよXロス」のほうの方が合っているなと思いました。
- ・「走れXロス」の文章の最後のほうには、「沈んでゆく太陽の十倍
も速く走った」や「Xロスは疾風のごとく」など今回調べたこと
とあまり合っていないところが書かれています。こういうところ
もおもしろいなと思いました。
- ・またやってみてください。

[引用資料]

国語 2 (教科書) 光村図書